

わが校のストップいじめアクションプラン

～いじめの未然防止、早期発見・早期対応～

目指す学校

子ども同士がつながり合い、笑顔と活気があふれる学校

子どものアクション

- 明るく楽しい学校・学級づくりを進める
 - ・「友だちの優しさや頑張り見つけ」を実施（毎日の帰りの会、隔月）
 - ・異学年で関わり合う場を楽しむ。
 - ・自学級の生活をふり返る。（隔月）
 - ・『大宝東小なかよし宣言』を確認し、全学級で実態を元に話し合う。
- 児童会による人権尊重推進活動
 - ・標語やポスターを募集し、放送や新聞などにより発信する。

家庭や地域と連携したアクション

- 学校評価で子どもの人間関係や学級生活の楽しさを調査し、その結果を保護者に説明する。
- いじめや子どもの人権にかかわる研修会を実施し、保護者と教職員が共に学ぶ。
- 学校協議会や学校説明会の場で本校の取り組みを説明する。
- PTA 地区懇談会、学級懇談会などで親同士の交流を深める。
- 学校だより等の通信を活用した発信。

教職員のアクション

- 自己有用感や自尊感情を育む【学校・学級経営】
 - ・個が生きる場やよさを認め合う場の設定を工夫し、子ども一人ひとりが力を発揮する喜びを感じることができるようにする。〔学級経営〕
 - ・子ども同士の協働や話し合いの場を通し、人間関係を築く力を育てる。〔特別活動〕
 - ・読み解く力を育成し、相手の意図や思いを理解する力を育てる。〔全教科〕
 - ・道徳の時間を中心に、思いやりの心情と道徳的实践力を育てる。〔道徳の時間〕
- 子どもに寄り添う【教職員と子どもの関係】
 - ・教師自身があいさつを率先して行い、子どもとふれあい、つながっていく。
 - ・授業や休み時間、昼食時、放課後等において子どもとふれあい、信頼関係を構築する。
 - ・「全教職員で全校の子どもを育てる」意識を持ち、教職員の交流を充実させる。
- いじめの芽を摘む【日常の取り組み】
 - ・いじめや人間関係に特化したアンケートを年3回実施する。
 - ・観察や日記などを通して子どもと思いを通わせ、子ども同士の関係の纏れに敏感になる。
 - ・いじめに発展しうる事案に関わる指導例を、教職員で共通理解して、組織として対応する。

現状（課題）

- ・自分を振り返って、素直に謝ったり、自己反省したりできないことがある。
- ・互いに気を遣う傾向にあり、本音を言い合う子ども同士の関係には至っていない場合がある。
- ・教職員の感性を磨き、毅然とした態度で問題を見逃さない姿勢を高める必要がある。さらに、教職員が子どもの様子を気軽に語り合えるような雰囲気をつくる必要がある。